

町田市議会・志政クラブ報告

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ閲覧



インターン生を同行

第

新庁舎駐車場工事契約

臨時議会が開催されました。3月の第1定例会に出される予定であった市役所新庁舎の駐車場建設の入札案件が、下記の事情で4月に入って再入札となったものです。その落札者が別途の民間工事で重大な労働災害を起こしていたことで入札参加資格がないにも関わらず、それを町田市に申告していなかったことで、その時点で正式契約に至らなかったものです。臨時議会では、その再契約案件は本会議で質疑後、総務常任委員会に付託審議され、本会議において賛成多数で可決(吉田も賛成)しました。

とは言え、同じ会派の志政クラブ所属の藤田学議員が質疑していたように、今回の受注業者はその第1定例会の別案件でも大規模な工事を受注しており、大型工事を継続して受注することで工事現場の労働安全性が保てるのか、また、一定の業者が続いて工事を落札すると、市内業者の工事受注の機会均等が失われているのではないかとする見地が述べられていました。これに対する担当者の答弁では今後の検討課題だとされました。

他にも土木・建築・電気・空調・衛生の各の公共工事分野の発注の中には、同一業者が続いて落札受注するケースが発生しており、指名業者選定のプロセス、工事契約の透明性、受注機会の均等の観点から、議員として、こうした公共工事の契約締結の動向には監視が欠かせないと思いました。

昨年、公立中学校の新設工事契約において、議会がそれを否決した例がありましたが、行政には再度そうした例が起きないように襟を正した入札管理を求めます。



(町田市議会は、地震の被害で本会議場が使えずに、ただ今、委員会室を使用中)

震災地・者支援の多様性

前回の記事では、東日本大震災の被災地・者支援に関して、町田市の対応が極めて遅かったことと、その体制が不十分なことを取り上げました。さらに、私は自分自身が、いち早く被災地を訪れたこと、民間ベースの支援活動が阪神大震災時と同様に開始されていたこともニュース提供をしてきました。

現在、4月中旬に至るまで、赤十字に集まった1200億円以上の義援金が被災者にはまったく渡っていないことが明らかになっています。この批判が大きくなり、ようやく被災地の一部県に渡されたと報道ですが、現状は、被災者の手元に行き渡るにはまだまだ時間がかかりそうです。なぜなら、被災者に義捐金を渡す方法が、未だ、現金支給か、銀行振り込みかが決定していない状況です。

そうした経過を見て、個人や民間のグループでは、できるだけ被災者に直接渡したいと考えるアクションが取られています。

放射性物質を含まない被災地の商品を受け入れること(販売購入活動)、募金をダイレクトに送り届けること(小さなグループの活動)がこれからのテーマに相応しい取り組みだと、私も思っています。

★マルチメディア双方向発信 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> 発見動画チャンネル <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ(市議会議員)

町田市議会・志政クラブ

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



携帯QRコード
でブログ記事



双方向の情報交流

被災地福島県のゴミを川崎市が受け入れることについての意見

今回の東日本大震災は、震災被害・津波被害に限らず、福島第 1 原発事故に伴い、強い放射線の発生や、放射性物質の排出が随所で起きています。しかも、その終息は、今だに見込みがつかない現状です。

そうした状況下、川崎市長は、福島県の瓦礫や粗大ゴミを川崎市が受け入れると発表しました。それは被災地への善意からの発想でしょう。しかし、川崎市では、それに放射性物質が含まれているのではないかと危惧する多数の意見が、市長宛に寄せられています。

その粗大ゴミの場合は、川崎市麻生区の王禅寺処理場(町田市から 2km)などで焼却されることとなりますが、その中に放射性物質が含まれていた場合、その煙突から放射線を放つガスとなって風に乗って空中に飛散するでしょう。個々の粗大ゴミの放射線量の測定を誰が行うのかも不明であり、東電・政府が行った放射線量測定の発表数値を正しいものとして信じるに足る根拠は極めて希薄です。

実際に、川崎市麻生区王禅寺で廃材などの粗大ゴミが焼却されるとなると、福島原発だけではなく、私たちの身近な生活の中にも、より放射性物質が舞い降りることになり、長期的に気が許せない事態になるでしょう。

私は、福島第 1 原発事故の発生以来、いち早く、町田市が自前で放射線量の測定を行うように求めてきました。とりわけ、町田保健

所が 4 月 1 日に町田市に移管されたことで、健康寿命日本一のフレーズに見合うことを目指して、その測定を早期に実施するように要望してきました。

この川崎市での福島県内の粗大ごみ焼却の問題を含め、町田市においては、大気中だけでなく、市内の学校グラウンドの地表や畑の野菜類も、それぞれの条件下で、周辺環境の放射線量の測定を日常的に行うことが必要だと考えています。



(川崎市麻生区王禅寺にあるゴミ処理場)

放射線量の測定について

町田市は、未だ放射線量の測定を行う具体的な計画を持っておらず、また、その方針を改めさせるところまで至っていません。今回の福島第 1 原発で原子力事故が発生した以降、茨城県つくば市では、独立行政法人の複数の施設で、大気中の放射線量を常時観測して、記録を HP にアップしています。

地震が絶えず起きている中、現地を訪れるとその測定状況を見学させて頂けた施設もありました。

掲載記事、あるいはご関心事は、下記の FAX かもしくはメールまでご送信先ください。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ インターンシップ(大学生の研修生を受け入れる)を実施中。現在、第 27 期生の佐藤裕介さん(明治学院大学心理学部教育発達学科 2 年生)が体験中です。問い合わせは下記に。

ご連絡、お問い合わせは電話・FAX、メールにて。Mail yoshidaben@gmail.com